

大念佛

No.65

発行/融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巖良舜



融通念佛宗管長

倍巖良舜

檀信徒の皆様、新春おめで
とうございます。

平成も二十五年を迎えるこ
ととなりました。

平素何かと檀那寺、並びに
総本山大念佛寺にお心を配っ
て頂き、大変有難く存じてお
ります。厚く御礼申し上げます。

迎春



昨年は開宗九百年、大通上人
三百回御遠忌にむけて本格的
に始動することとなりました。

事業の方では新延喜殿の建
設も始まり、今年中には完成
をみる予定であります。これ
が出来上がると本山参詣の皆
様にもゆつたりとおくつろぎ
頂けることと期待しております。

昨年十一月十日には東京国立
劇場に於て「融通念佛宗総

本山 大念佛寺の声明 万部
法要」という題で公演するこ
とができました。多勢の方に
融通念佛宗の声明と、二十五
菩薩の立派さを見聞して頂け
たことと喜んでおります。

これを機に、融通念佛宗の
活動が全国に展開していくよう、
衆知をしぼって努力を致さね
ばと思っております。

また、昨年は十六ヶ寺に於

てお伝法が修行され、正しく
融通念佛宗の法が伝えられる
と云う意味で大変有難いこと
です。本年も多くの末寺院に
於てお伝法が修行されるとう
かがっております。本宗発展
のため、まことに結構なこと
であります。

本年も皆様方の御健勝と御
活躍と御多幸を祈念致してお
ります。

百万遍大数珠くりりに寄せて

融通念佛宗務総長 吉村 暉 英

◆三長斎月

一月十六日は恒例の「百万遍大数珠くり」が行われる。この法要は億百万遍会または百万遍会といい、一、五、九月の年三回行われる。この三月は三長斎月（三斎月）といい、精進して悪をつつしみ、善行を修めるべき月と定められている。一月は衆生現生の初め、五月は興盛の月、九月は欲蔵の初めなりといわれ、一月は年の始めで、去る年の悪を悔い改め、新しい気持ちで生活を始める月である。五月はあらゆるものが生氣に満ち溢れる月であり、九月は欲望がいっぱい溜まる月であるという。好事

◆億百万遍の功德

につけ悪事につけ、私たちの心を迷わせる悪鬼が横行しやすいので、数珠繰りによってそれを退散させるという意味があるものと思われる。

◆大念佛寺の大数珠

きくなる。これを億百万遍または百万遍という。まさに数珠繰りは融通念佛の原理を实地に踏み行っているものということができる。

多勢で念仏を唱和しながら数珠を繰ると、あたかも自分がまわした数珠の一粒一粒が他のすべての人に順繰りに行きわたるように、自分が称えた念仏が他のすべての人に回り向く。そしてその念仏は互いに融通しあって、人数と遍数が増えることに莫大な数量となつて、得られる功德もそれだけ大

本堂外陣の四方長押しに吊された大数珠を目にされた人も多いであろう。これが百万遍の大数珠である。元の大数珠は、大通上人が江戸巡錫中、かの地において五千四百人の帰信者を募り、元禄十三（一七〇〇）年、人数分の大数珠を作製し、本山に持ち帰られたが、明治三十一年の火災で消失したため、第五

十六世・得善上人が明治三十六年六月、櫻材で再製されたものが現在の大数珠である。その母珠（中心の大きな珠）は直径十五cmの球形で、一部をくり抜きその中に金具を貼り、金銅の阿弥陀仏像を安置し、くり抜いた部分に格子金具で蓋をしている。成珠（本体の珠）は直径七・五cmの球形を、つなぎ部分の両端を扁平にして六cm巾になつており、その数は千二百個ある。一つ一つの珠には、中央に南無阿弥陀仏、その下に戒名または法名を、戒名の右に寄進者の住所左に姓名がそれぞれ陰刻されている。



◆数珠の効能

元来、数珠は念仏や陀羅尼の数珠を数えるためのものであった。お経の中に「若し経を誦し、念仏し呪を誦する行者は、須らく手に数珠を執るべし」とある。また数珠は「オモヒノタマ」（思いの珠）ともいい、称えた数を思う、記憶するという意味の外、自己の思い、信念、信心の気持をこめるといふ意味もある。今では仏教徒のシンボルとなっていることは周知のところである。

その数も百八、五十四、四十二、二十七、二十一、十四など様々であるが、普通、成珠百八顆を基本とする。これは百八煩惱を断ち切る願いを意味する。しかし実際は煩惱（心を迷わす煩悩、欲）を断ち切ることができないのが人間である。しかし断ち難い煩惱を少しでも抑える努力をすることが大切である。それによって人は己れの愚かさを自覚し、それでも生かされていくことの大きな喜びと感謝にめざめることができる。数珠は仏さまからいただいたという手錠である。これを手にすれば悪をとどめる役目をしてくれる。人間

◆蓮の実の数珠

数珠の材質も多種多様である。金、銀、水晶、真珠、めのう、珊瑚などの宝石類、菩提子、木樨子、蓮華子などの木の實、沈香、白檀などの種類が多い。



母 珠

その中で本宗では蓮子（蓮の実）の五十四顆の数珠を最も尊ぶ。数珠の功德を説いたお経に、蓮子を以て数珠にすれば、福德が万倍になるとある。蓮は仏と最も縁の深い花である。泥中から泥に染まらず美しい花を咲かすが、苦惱に満ちた濁世（現実の汚れた世界）の中から真実のめざめを得ることに譬えられ、むしろ泥（煩惱）の中にこそ真実の幸わせがあることに気づくことを教えている。また、華果同時といって花が咲くとき実をつけていることを、人間は本来的に清らかな仏の心を持つていくことに譬え、一茎一輪といて一本の茎に一花が生じることを、一仏乗といて誰もが仏になりうる尊厳性を示していると教える。

また五十四顆については、百八を便宜上、半分にしたものではあるが、それを永遠の昔から今に至って人びとを教化し、悟りの道に引き入れるため世に出現された五十四仏になぞらえている。ともあれ蓮の実の数珠には大きな功德があるから、これを執持することによって、大いなる幸せの道を成就することを願っているのである。

東京 国立劇場

「大念佛寺の声明 万部法要」 公演成功裏に終える

編集委員会

文化庁芸術祭協賛・国立劇場主催事業として「大念佛寺の声明 万部法要」が昨年十一月十日に公演されました。

「万部法要」の再現ということ
で本山からは、倍巖良舜管長殿下、吉村暉英宗務総長を筆頭に教学部長本山職員に加え、讃師、菩薩役、楽役、座奉行の諸役の方々、合わせて約八十人にもなろうかという大勢の出仕でした。舞台公演ということでしたが、関東地方での意義ある融通念佛宗の布教と普及の機会と捉えて数多くの練習を重ね、公演に臨みました。

公演日前日十一月九日は、午後一時に国立劇場に集合。全体のリハーサルは、本番の舞台では初めてなので関係者一同ここを集中して取り組みました。

本番は十日。主催者の意向により「声明」に焦点が当てられており、その趣旨を踏まえ、従来の万部法要より、数多くの「声明曲」が加えられました。

開演は、午後一時より第一部、会場は満席です。如法念仏で幕が開き、吉村総長の「万部法要」紹介の法話。そして「前行」が倍巖管長の御導師のもとで執り行われました。二十分の休憩の後「万部法要本行」に入り、入御楽のもと菩薩の登場です。讃楽「十天楽」と声明「四智讃」が奏される中、壮麗絢爛の「菩薩伝供」に東京の観客も舞台に魅了されているようでした。声明「総礼伽陀」「散華」が唱えられ、第一部が締めくくられました。



写真提供：国立劇場

岩湧山にひびく子供達の念仏 子供念仏会報告

第四教区大善寺 吉村 明山

夏休み子供念仏修行体験も今年で、六回目となりました。今回も河内長野市にある、岩湧寺さんにお世話になりました。参加人数は十二人。最年少は五歳の女の子で、二人のお姉ちゃんと一緒に参加してくれました。最年長は今回で参加五回目になる男の子で、毎年たくましく成長する姿に驚かされています。

七月二十七日から二十八日の一泊二日の修行体験。はじめの内、子供たちは、しどろもどろにお経を読み、戸惑いながら礼拝したり、慣れない手つきで夕食作りや食事作法もしました。夜は本堂で、私たちの命のつながりを火にたとえ、一本のローソクから、子供たち一人一人に火を繋いでいき、命のお



「良忍上人・宗淵上人報恩謝徳法要」 厳修される

編集委員 山田 陽道

去る十月十六日、午後一時より約二時間にわたって、天台真盛宗別格本山西来寺 経奉行、同法儀団伊勢教区支部、真盛楽所の方々が、大念佛寺に、はるばる三重県津市から来山され、そして盛大に「良忍上人・宗淵上人報恩謝徳法要」を厳修されました。

式衆の方々・世話役の方々・雅楽の方々約六十名、そして西来寺檀家の皆さん約百二十名の総勢百八十名もの訪問参詣で、法要の導師には寺井良宣西来寺御山主が勤められ、更に河合歳明天台真盛宗宗務総長のご臨席の下での法要でした。

てムササビ観察もしました。ムササビの姿は見る事ができませんでしたが、声は聞くことが出来ました。岩湧山ハイキングでは全員が頂上まで登り、雄大な景色を堪能しました。写真では「十如是」を書きました。すみで手が真っ黒になりました。

では最後に参加者の感想文を紹介させていただきます。

「昨年初めて念仏をしたとき、わけがわからない文章ばかりだったのでびっくりしました。カレー作りでは私たちが切ったりむいたりした野菜をさらにおいしくするために、調理をしてくださって感じやしています。山登りでは妹がともおせわになりました。念仏は持つてかえって練習したいです。とてもいいいけんになりました。最後の念仏も声を出せました。」

「そうじの時も協力してすばやく出来たのでよかったです。カレー作りも難しかったけどじょうずにできました。朝初めて五時におきてねむたかったです。山登りでは体調が悪かったけど周りの人たちがやさしくささえてくれたのでうれしかったです。」
「カレーライスを作る時にタマネギが目がいったりニンジンがかたかったりで、しんどかったです。でも友達が出来ていっしょに手伝いあって良かったです。」



法華経立経読誦式

した。初めは宗淵上人開版の山家本『妙法蓮華経』の巻第八を立つたまま読誦し行道する法式、非常に力強くテンポも速い「法華経立経読誦式」といわれる法要です。

後半は「順次往生講式」と呼ばれる法要で、雅楽が奏される中、和文の文言が節つきで読誦されます。この声明は良忍上人ご生前の永久二（一一一四）年に始修という記録があり、天台声明の往時が偲ばれました。なおこの法要の記念として、『山家本法華経十卷二式（木箱入り）』『順次往生講式と管絃講（西村岡紹編）』等、が我宗に奉納されています。
本堂ご参詣の西来寺檀家の方々も最後まで神妙にお詣りされ、帰りの山門を出られる時も笑顔で、大念佛寺にお参りしてよかったです、ありがとうございますと挨拶されていました。
この法要開催を契機に、今後とも両宗の交流親睦が盛んになり、声明の分野でもより一層の交流研鑽の発展が期待されます。

末寺巡礼 39 第八教区の寺々

編集委員 大東良清

船墓山 融通寺

大和郡山市額田部北町九三七 船墓山 融通寺と号すこの寺の山号は奈良時代絵図で国宝額田寺伽藍並条里図の中で天平時代の豪族額田部宿禰を先祖とする船墓が由来である。額田部宿禰の古墳であるこの勝地に元禄元(二六八八)年管主大通上人が隠居の地としてこの寺を開基する。

船墓の森林を背景とし兆域約貳

大惠山 観音寺

生駒郡安堵町西安堵七四一 大惠山 観音寺と号すこの寺は奈良県北西部の安堵町西安堵の集落の中央部にあり、聖徳太子創建の常楽寺堂宇の一つ、御厩堂の後身だと伝えられている。本堂正面の阿弥陀如来坐像は漆箔を塗り来迎印を結び、江戸時代の作であるといわれている。本尊、十一尊来迎図の他、十一面観音立像、毘沙門天像、地藏菩薩坐像等が安置されている。また明治初年の神仏分離・廃仏毀釈ののち、西安堵にあったすべての廃寺(常楽寺・正覚寺・道常寺・観音堂)の什物が観音寺に移され、弘法大師坐像、阿弥陀如来立像も安置している。境内には釣鐘堂(一七七八年)があり、毎年大晦日には子供から大人まで多くの参拝者が集まり、一年の感謝と希望を胸に、除夜の鐘がつかれる。本堂は、正徳三(二七二三)年、次に亨和元(一八〇一)年に再建、修理をし、ほぼ現在の寺形になっている。



千坪先の本堂は安永年間(一七七二〜八二)の修築、庫裡は安政の頃左保川流域舟代官安村氏の客殿を移し改修していた。表門は明治初年高取藩主の玄関門を移転したものであった。しかし老朽化のため庫裡は昭和五十九年に、本堂は平成十五年に新築す。又表門は平成十六年に解体して新しく復元建築をした。今現在寺宝として、大通上人御影画像・大通上人直筆寺号額が存在す。



大覚山 金輪寺

大和郡山市今国府町七四九 大覚山 金輪寺と号すこの寺の御本尊は阿弥陀如来立像。境内には平成十三年再建の本堂と観音堂がある。亨保九(一七二二)年の和州御領郷鑑によると「今国府村には金輪寺、正楽寺、大日堂がある」と記されている。金輪寺は当時「こんりんじ」と呼ばれていた。この呼称は金輪際という仏教用語と符合する。金輪寺の涅槃録は明治三十五年から書き始める。冒頭には「今江村 金林寺 代々看坊当時無住、此寺縦往古在之、開基年曆不分明」とある。この涅槃録は元禄元年からの霊名が写しとして記され、今日に至る。



正楽寺は延寶七(一六七九)年創建の真言宗の寺で、今国府村別の地にあったものが明治十九年に廃寺となり、金輪寺に移転され観音堂として祀られている。大日堂は山門脇にある地藏堂のことで、石佛二体のうち一体は地藏さん、一体は大日如来である。

順光山 西興寺

大和郡山市横田町七二二

順光山 西興寺と号すこのお寺の在所は、古くは戦国時代に活躍した筒井順慶と縁がある奈良県添上郡治道村に住まいを構えていた横田氏の里である。御本尊阿弥陀如来の他に、寺宝として観音菩薩像と地藏菩薩像がある。この観音菩薩像は寺伝によると、古の時代に川よりこの横田の地に流れ着き、その像を村人達が大事にお祀りした言い伝えがある。以来雨ごいの仏

日照山 西方寺

磯城郡田原本町八田三二三

日照山 西方寺と号すこの寺の草創は明らかではない。文禄四(一五九五)年「紀州式下郡八田村御検地帳」(八田区百文書)の名請人にみる。明治には「本堂三間三尺 庫裏五間三尺 梁行二間 門二間 梁行一間 境内坪数九二坪 檀徒百二十人」で、境内に大日堂一宇を存すとある。本尊阿弥陀像は室町時代後期の作で、脇侍の観音・勢至両菩薩像は江戸時代中期。境内に元亀四(一五七三)年の背光五輪碑と天正七(一五七九)年の阿弥陀石仏を遺す。延宝五年の「融通大念仏記録」

総本山 除夜法要レポート!!

毎年恒例の総本山大念仏寺で行う除夜法要。まずは大晦日の午後十一時十五分頃から鐘楼法要が始まります。この法要が終われば、誰でも除夜の鐘を撞く事が出来ます。撞く順番を待つために少し並びますが、家族全員で一斉に撞く事が出来ます。次に本堂で午後十一時四十五分頃から除夜法要が勤められます。除夜法要が終われば宗務総長から新

さんとして村人に親しまれています。又、地藏菩薩像は十三世紀中頃の善慶の作で奈良県の文化財でもある。この地藏菩薩は子授けの御利益があると村人から信仰を集めており、毎年地藏盆にはたくさんの子供達が集まる。村人の間では、一升の米を地藏さんに御供えし、その米を夫婦二人だけで食べると不思議と子が授かるとの言い伝えがある。



(守口市来迎寺文書)に「八田東村道場」と「西八田村観音寺」の二カ寺のあったことを記している。東村道場は元和四(一六一七)年、村の信者達によって創建されているが、これは明治六(一八七三)年に「八田村東庵室」と「大和国各郡寺院調査」に記載されている寺院のことであろう。現在の本堂は平成十二年十二月に建替され、又門も平成二十四年五月に建替される。どちらからも前のままの大きさで建替している。



年の挨拶があります。挨拶が終われば、本堂にて紅白餅が配られます。境内では、ぜんざいも振る舞われます。御酒も頂けます。但し、数量に限定あり。ぜんざい先着一〇〇名。紅白餅先着五〇〇名。御酒も無くなり次第終了です。地元の方でお参りの慣れていらっしゃる方は、除夜の鐘を撞いて、紅白餅・ぜんざい・御酒と頂かれますが、何分多くの参詣の方々が順番を待つて並びますので、全て頂く事はかなり難しいと思います。又本堂では、御祈禱を勤めております。

御祈禱は一人壱千円にて受け付けております。機会があれば、大晦日に本山 大念仏寺にお参りください。

大念仏寺 年中行事のご案内(二月〜七月)

- ◎一月一日(火・祝) 午前五時 修正会
国家安泰・五穀豊穡・万民豊樂を祈願して法要が修されます。
- ◎一月十六日(水) 午前十二時 融通念仏会
ご一緒に念仏を称えましょう。
- ◎一月十六日(水) 午後一時 百万遍会(大数珠くり)
外陣いっぱい張りめぐらされた数珠を、お念仏の声もろともに繰ります。管長親下から身体堅固のお加持が受けられます。
- ◎二月三日(日) 午前九時三十分 寒行
本山僧侶が平野の町を鉦を打ち鳴らしながら托鉢します。
- ◎二月十六日(火) 午後二時 毘沙門天護摩供 午前十時 大般若転読 午後二時
- ◎二月二十六日(火) 午後二時 元祖聖応大師 御忌法要
- ◎二月二十七日(水)〜三月五日(火) 午後一時 保管霊骨追善法要
- ◎三月二日(土) 午前七時三十分 河内御回在御出光
- ◎三月五日(火) 午後一時 再興大通上人 御忌法要
- ◎三月二十日(日) 午後二時三十分 写経奉納供養・筆供養
- ◎五月一日(水)〜五日(日・祝) 万部法要
阿弥陀経一萬部が誦誦され、本堂の外側に橋を組んで、雅楽演奏のうちに菩薩さまがお練りをされる儀式です。
- ◎五月十六日(木) 午前十一時 融通念仏会
- ◎五月十六日(木) 午後二時 百万遍会(大数珠くり)
- ◎五月二十二日(水) 東照大権現忌
- ◎五月二十九日(水) 午後三時頃 河内御回在御帰院
- ◎七月七日(日) 午後二時 中祖法明上人 御忌法要
- ◎七月二十日(土) 鳥羽上皇忌
- ◎毎月第二水曜日 午後二時〜四時三十分 大念仏寺仏教講座
- ◎毎月二十六日 午後一時三十分 定例布教
- ★写経のご案内
毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経(巻千円)を行っております。
- ★納骨のご案内
本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。
- お問い合わせ 大念仏寺宗務所 ☎〇六―六七九―〇〇二六

謹賀新年

融通念仏宗総本山 大念仏寺

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレビホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

金曜日：融通念仏宗・浄土宗

(月曜日〜金曜日) 一月十日〜十月二十四日 八休

でんわ 〇六(六二四五)五一一〇

午後二時〜五時迄